

改訂学習指導要領 理念抜粋

「生きる力」を身に付けさせる取り組みの継続 (学校・家庭・地域の連携)

- 基礎的・基本的な知識・技能の習得
- 習得したことを活用し課題解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成
- 学習意欲の向上や学習習慣の確立により主体的に学ぶ態度を育成
- 豊かな心や健やかな体の育成のための指導の充実

東京都教育委員会の教育目標 主旨

子どもたちが知性、感性、道徳心や体力をはぐくみ、人間性豊かに成長することを願い、

- 互いの人格を尊重し、思いやりと規範意識のある人間
- 社会の一員として、社会に貢献しようとする人間
- 自ら学び考え行動する、個性と創造力豊かな人間の育成に向けた教育を重視する。

また、学校教育及び社会教育を充実し、だれもが生涯を通じ、あらゆる場で学び、支え合うことができる社会の実現を図る。そして教育は家庭、学校及び地域のそれぞれが責任を果たし、連携して行われなければならないものであるとの認識に立って、すべての都民が教育に参加することを目指していく。

北区の教育が目指す子どもの姿 概要

<北区教育目標>
「教育先進都市・北区」の教育は、教育基本法に則り、人間尊重の精神を基調とする。
地域社会の一員としての自覚のもと、ふるさと北区に誇りをもち、自らの力で人生を切り拓き、広く国際社会に貢献することのできる、心身ともに健康で文化的な資質をもつ人間を育成することを目指す。

<「教育先進都市・北区」の教育目標を実現するための3つの視点>

- まなび** 視点1 「個の成長」自ら学び・考え・行動する力の育成
- ささえ** 視点2 「協働と貢献」地域を支え社会に貢献する人づくり
- つなぐ** 視点3 「継承と循環」世代を超えてつながる学びの創造

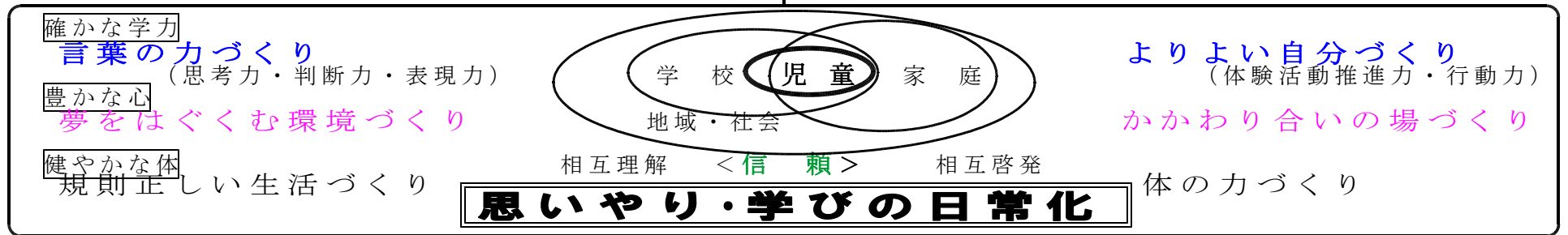
学校の教育目標

心身共に健康で、自ら考え、学び、判断し、実践することのできる人間性豊かな児童、生命尊重の精神と規範意識をもち、社会に貢献しようとする児童の育成を目指し、次の児童像の実現を図る。

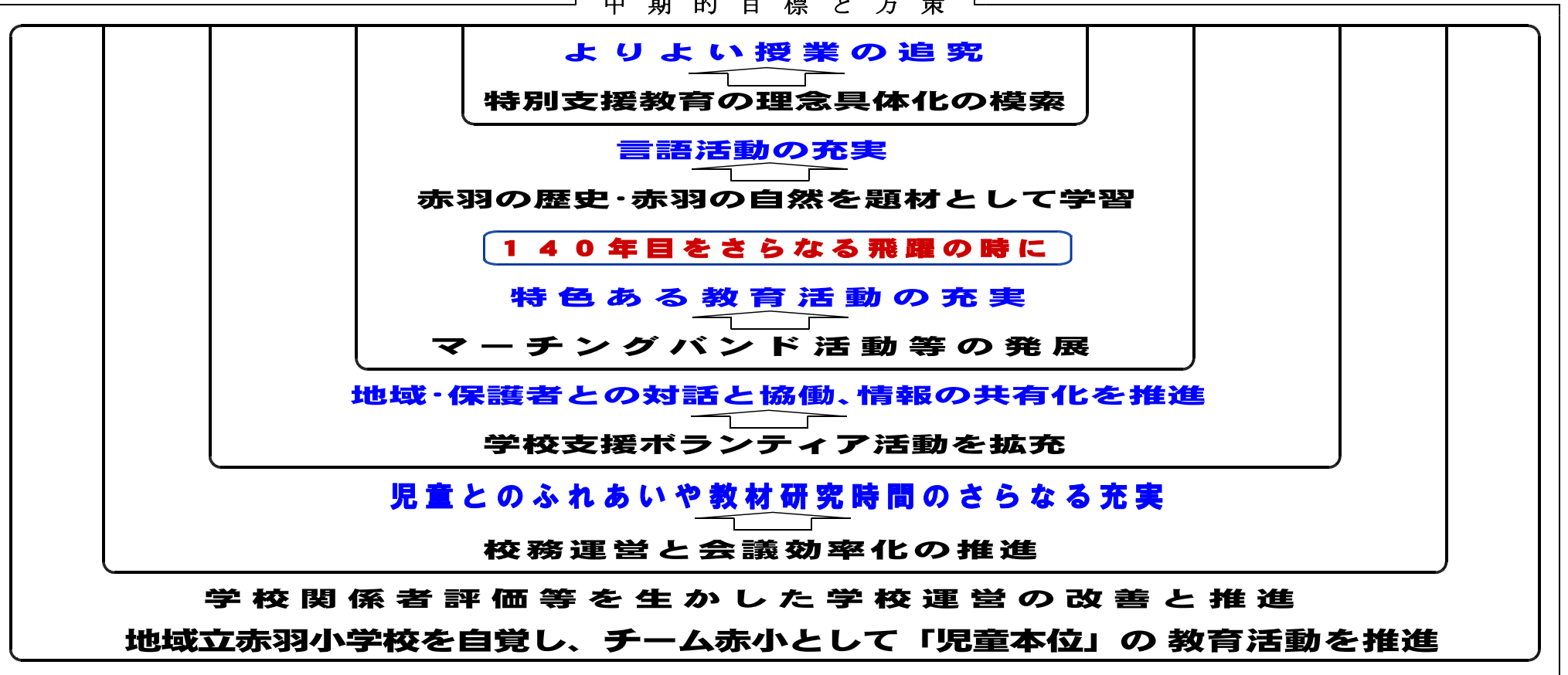
明 る い 子 ど も (あ)
考 え る 子 ど も (か)
働 く 子 ど も (ば)
ね ば り 強 い 子 ど も (ね)

目指す学校像

個が輝き共に生きる夢のある学校



中期的目標と方策



赤羽小の特色や実施事項

- ☆言語活動の充実を核として“学びの日常化”が図られている。
- ☆マーチングバンドの活動(4/5・6年)を通して、地域との交流を図り、地域への帰属意識を高めるとともに、赤小の子どもとしての誇りと自信をはぐくんでいる。
- ☆縦割り班のなかよしグループを活用した全校遠足や児童集会交流給食などの異学年交流、特別支援学級との交流を通して相互理解を深め、共生の意味を考え、思いやりの心を育てている。
- ☆読書活動を推進し、図書室整備を地域・保護者と連携して行い、緑化活動との関連も図っている。
- ☆学校の自然を活用する中で、自然体験活動の機会を生かし、生命尊重の精神をはぐくんでいる。
- ☆地域商店街との連携を深め、合同行事の開催や積極的な参加また児童の職場体験等を推進している。
- ☆外国語活動を通してコミュニケーション能力とともに異文化理解を図っている。
- ☆算数少人数指導の工夫を図っている。
- ☆学校評価を学校経営や授業改善等に生かしている。
- ☆特別支援教育の理念の具体化を常に考え、工夫している。
- ☆理科支援員の有効活用を図り、理科教育を充実させている。

赤羽小の教職員

- ★“学びの日常化”を根底において指導にあたる。
- 「赤小ガイドブック・ベーシックプラン」の有効活用を図る。
- ★さわやかなあいさつを教職員も積極的に率先垂範する。
- 学校・家庭・地域全体での重点的な取り組みとする。
- ★児童との心のふれあいを一層大切にする
- 日々のかかわり合いへの細やかな配慮・協働・“共遊び”。
- ★人的環境を意識し、穏やかな言葉遣いをする。
- 「心と言葉」のつながりを重視した道徳教育の充実を図る。
- 家庭教育との連携を図るよう継続して啓発する。
- ★授業の工夫と個別支援により学習の基礎・基本を定着させる。
- 家庭・地域と連携した反復学習やボランティア導入拡充。
- 放課後時間の有効活用を学年・学級や専科等で工夫する。
- ★確かな教材研究による楽しい授業の充実を追究する。
- 学年研修会を情報交換・教材研究や準備に有効活用。
- 保幼小中一貫教育を推進する。
- ★体力向上に向けた取り組みをしていく。
- “共遊び”や運動朝会等を活用し運動に親しませるとともに体力向上につなげる。
- ★環境整備により心身の安全対策を推進する。
- 校舎内外の環境を整え、心身の健全な育成を増進する。
- メール配信等を活用し、迅速な情報提供を一層進める。

今年度の重点目標	重点目標達成のための方策
<p>全ての教育活動を「言語活動の充実」を核とし、児童・教師・表現力の育成を図る。また、「学びの日常化」を推進する。</p>	<p>○言語活動の充実を核とした年間指導計画に則り学年や教科等間のつながりを押さえた授業を展開する。 ○図書室・図書館の有効利用を図り、言語への関心を高めるとともに、美しい日本語の担い手を育てる。 ○「みどりのひろば」を、読書や生活・理科等を中心に積極的に学習の場として活用し、環境教育にも取り組む。 ○「みどりのひろば」の授業と、前研究や協議会、授業後の検証を全員で進め、授業力のみなならず、職員室や校内全体が底上げを図るよう共有化し、日常の教育活動全般に敷衍する。</p>
<p>放課後の時間を中心に、児童と教師とのふれあいや教材研究・教材準備の充実を図る。</p>	<p>○始業前や休み時間にも「共遊び」や個別指導等、児童とともに過ごす。 ○OJTの心身の状況をよく見取り、職員朝会等で全教職員に共通理解を図り、適切・迅速に対処する。 ○児童の心身の状況をよく見取り、職員朝会等で全教職員に共通理解を図り、適切・迅速に対処する。 ○特別支援教育の理念が、もつて過剰な環境づくりを道徳・キャリア教育を中心として推進する。 ○相互指導の基盤を、我が子同様に守ることを保護者へも呼びかけたり、メールを活用したりして、安全な遊び場や遊び方の判断ができる力を身につけさせる。 ○全不審者や校舎周りを安全な遊び場や遊び方の判断ができる力を身につけさせる。 ○児童が在学時に、避難訓練を、地域との連携で行い、万が一に備えた動きの想定に近づける。</p>
<p>安全・安心で居心地のよい学校生活を維持・発展させる。</p>	<p>○特別支援教育の理念が、もつて過剰な環境づくりを道徳・キャリア教育を中心として推進する。 ○相互指導の基盤を、我が子同様に守ることを保護者へも呼びかけたり、メールを活用したりして、安全な遊び場や遊び方の判断ができる力を身につけさせる。 ○全不審者や校舎周りを安全な遊び場や遊び方の判断ができる力を身につけさせる。 ○児童が在学時に、避難訓練を、地域との連携で行い、万が一に備えた動きの想定に近づける。</p>
<p>学校支援ボランティアの活用を促進し、これらとあわせ、ボランティアの充実を図る。</p>	<p>○組織的な活用推進を図るよう、内容の統合整理と連絡体制を進めるとともに、スクールコーディネーターや環境整備の充実・発展につながるようボランティアの方々には、授業等にかかわっていただく機会を積極的に提供し、活動の活性化を図る。 ○保護者・地域の方々とのかかわりを深め、具体的な学習活動等を通じてよりよい教育活動に結びつける。 ○P.T.A.やPTA・ボランティアにも呼びかけて協働する。直に地域の方々の考えに耳を傾けたり、日々の理解促進を図る。</p>
<p>学芸会を児童一人一人が主体的に活動できるように取り組む。</p>	<p>○学芸会委員会の中心とした表現活動に児童の思いや願いが反映されるよう指導を工夫する。 ○学年・学級の枠を超えた児童相互の学び合いが反映されるようにする。 ○演劇等の機会を捉えて言語活動の充実を図り、味わえるようにする。</p>
<p>学校ファミリーを主体とした小中一貫教育推進の在り方を実践的に模索する。</p>	<p>○学校ファミリーの日を活用し、中学との生活・学習両面からの連携を深める。 ○北区小中一貫カリキュラムを活用し、中学との一貫した学習の在り方を実践を通して積み上げる。 ○防災教育・防災訓練を小中並びに地域・保護者と協働で実施することの在り方を推進する。</p>

<今年度の取組目標と方策>

主な教育活動の目標	主として児童との関連	主として教師との関連	主として地域・家庭との関連
各教科・領域の指導	<p>○子どもが主体的に取り組める授業を組み立て、基礎・基本の徹底とともに、学び続ける喜びを味わわせ生涯教育の基礎をつくる。 ○互いのよさを認め合い、一人一人が輝き自己表現できる力をはぐくむ。 ○地域立の学校の意識を北区学校サブファミリー推進とともに140年の節目を活かす。</p>	<p>○教師の命は授業にあることを肝に銘じ、研究・修養に努め、資質の向上を図る。 ○全職員が経営参画意識をもって建設的な意見を出し、ボトムアップにより学校経営を支持する。 ○学習指導要領の趣旨や小中一貫を意図した授業の推進を積極的に進める。</p>	<p>○対話と協働により、家庭や地域社会との連携を一層深めるとともに77ファミリーを活用した小中一貫教育の実現に向け、相互理解を深め、よりよい児童へのかかわりに還元する。</p>
特色ある教育活動	<p>○基礎・基本の学習を重視し、大事なことは繰り返し学習するなど確実な定着を図る。 ○児童の基礎学習など個に応じた指導に、復習や発展学習など個に応じた指導に、なご児童本位の評価観を重視する。 ○新聞等の活用を積極的に取り入れ、自分の考えをもち、発信する力を高める。 ○外国語に親しむ機会をもつよう年間を通して外国語活動の時間を活用し、日本人と異文化理解の機会を創出する。 ○年間計画・週予定等を活用し、組織的・系統的に授業・評価を積み上げるようP→D→C→Aのサイクルを有効に生かす。 ○全教活動を通して道徳的・社会的・地域と心を育てる。 ○生命・尊重を主眼とした保健授業を推進する。 ○小中一貫教育を意識した授業を北区学校サブファミリーを主として推進する。</p>	<p>○電子黒板や実物投影機等、電子機器の活用を図り効率的で充実した授業展開を目指す。 ○学校図書室としての機能充実を図り、読書活動を自主的に調べ学習が進められる環境作りを推進する。 ○食育に関する学習の場を食育リーダーや家庭科担当、養護教諭との連携で行い生活の根幹にかかわる食への理解を深める。 ○授業参観や授業観察・自己申告に伴う面談を自己啓発の場として積極的にとらえ教員としての資質向上に役立てる。 ○外部で受けた研修は、校内に還元し常に知識・情報共有化に努める。 ○学芸会等を活用し、児童理解に基づいた教材研究を行うなどOJTの場とし、実効性の高いものへと随時改善していく。 ○若手教諭・講師等への指導を相互の力量を高めて充実を図る。 ○体力向上を期し、運動朝会の取り組みとつながりを中心に授業の創意工夫を図る。</p>	<p>○授業や行事の学校公開の実施を前向きにとらえ、活動の充実や緑化推進等の主体的な学習を活かし、保護者や地域に主体的なかかわりをしていただくよう活用を進める。 ○読書ボランティアとして地域・保護者にかかわっていただき、本との出会いを楽しみたい宿題を主とした宿題を最低ラインとして家庭学習の習慣化を図る。 ○学校サブファミリーの日を活用し、中学との相互理解を深められるよう授業実践を共同で行う。</p>
生活指導	<p>○言葉と心のつながりについて考えさせるとともに、美しい言葉遣いは相手への思い遣いとして率先垂範していく。 ○元気よく挨拶や返事が人間関係を良好に歩ませるとともに、相互に尊重しあう名前を呼ぶ習慣を徹底する。</p>	<p>○子どもたちが安心・安全に通ってこられる学校体制が全教職員で常に見直し維持する。 ○相手への思いや気持ちを行動に移す循環を生みだし、「いじめゼロ」を維持する。 ○全児童に対し、全担任の意識で、一人一人の様子をよく見聞きし、情報の交換を通して登校への手立て等を出し合い改善する。 ○都や区のスクールカウンセラーや言難学級との連携を密に図り、専門的視点を生かす。</p>	<p>○学校評議員に教育活動全般や、諸行事を通して参観していただき、修正を仰ぐ。 ○P.T.A.・地域の連携で児童の安全・安心を同層確保するのと同時に、合同講演会等の共有化に努める。</p>
学校運営	<p>○あらゆる機会をとらえ、赤羽小への愛着と誇りを培い、地域を愛する心を育てる。 ○緑化推進と、その大切さを体験を通して学ばせるよう「みどりのひろば」をはじめとした花壇・学年園等の維持・整頓にボランティアの協力を得ながら全校で計画的に取り組む。 ○特に児童にかかわることは校長・副校長・主任等へ報告・連絡・相談を密に行い、一枚岩となって教育活動を推進する。 ○時間に対するコスト感覚を磨き、児童との触れ合いや教材研究の時間を生み出す。 ○学校経営計画をもとに、学年・学級経営案と自己申告書に一貫性を保ち、特に年間3回は綿密に振り返り、点検をする。 ○児童の個人情報管理に最大限の注意を払う。</p>	<p>○主幹・主任を生かした組織をさらに実のあるものとし、会議内容・方法の効率的な運営によって児童とのふれあいや教材研究の時間を確保し学年研修会等充実させる。 ○地球環境に配慮し、光熱使用や物品使用へのコスト感覚を高めるとともに、環境教育に結びつけるよう子どもにも働きかける。 ○環境への関心や感謝の気持ちを醸成するよう用務主事等の仕事内容に対する理解を深めるよう、機会を捉えて伝えていく。 ○教諭はもとより、事務職員・用務業務も学校職員であることの自覚を深め、児童の人的環境として教育的配慮を怠らない。 ○言語難聴学級が校内にあるよさを活かした連携や研究の共有化で相互の資質を高める。</p>	<p>○学校評議員（学校関係者評価）や保護者からの評価を数値化し、よりよい教育の在り方に活かす。 ○ホームページの充実を進めるとともに、個人情報等も最大限の配慮をもち、児童の個人情報保護を徹底する。 ○児童だけでなく地域の行事へ積極的に参加し、地域の具現化を図っていく。</p>

☆学期末など、随時見直しを行い共通理解を深めながら、児童や地域の実態、社会の動きに即した学校経営を推進する。☆
☆改善すべき点や新たなことの導入は、教育活動に支障のない場合は、年度末を待たずに実施に移す方向で考える。☆